

あかふじ

ニュース

第 7 号

発行 平成 23 年 7 月
山梨県消防防災航空隊



東北地方太平洋沖地震における応援ヘリコプター駐機状況：宮城県グランディ 2 1

《山梨県ホームページ》
<http://www.pref.yamanashi.jp>

《やまなし防災ポータル》
<http://www.pref.yamanashi.jp/bosai>

山梨県消防防災航空隊
〒400-0108 山梨県甲斐市宇津谷 445-1
TEL 0551-20-3601
FAX 0551-20-3603
E-mail bousai-kokuu@pref.yamanashi.lg.jp

目次

- あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 緊急消防援助隊出動報告（東北地方太平洋沖地震）・・・・・・ 2
- 平成 22 年度卒隊隊員紹介、平成 23 年度行事予定・・・・・・ 7
- 平成 23 年度隊員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 「あかふじニュース」発行に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

あ い さ つ

はじめに東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、多くの行方不明の方の御無事をお祈り申し上げます。また、被災された皆様とご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧、復興を心からお祈り申し上げます。そして、この度の大規模災害において緊急消防援助隊等で懸命な活動をされた県内各消防本部並びに防災関係機関の皆様におかれましては蓄積された知識と技術を最大限に発揮され災害の鎮静化に御尽力されたことに敬服いたします。

あらためて御挨拶をさせていただきます。県内各消防本部並びに防災関係機関の皆様におかれましては、日頃から消防防災航空隊の発展及び各種災害対応に御尽力いただきまして厚く御礼申し上げます。平成7年4月に「あかふじ」を導入して以来、今年度で17年目を迎え、4,700時間を超える飛行を行なっておりますが、事故等もなく安全に運航してまいりました。これも皆様方の厚い御支援があつてこそと考えております。

近年、災害が広域化、複雑多様化するといわれていた中、平成23年3月11日に戦後最大規模の自然災害となった東北地方太平洋沖地震が発生いたしました。大地震、大津波による壊滅的な被害に加え、火災、N災害等多様な災害を経験し住民の方々、すべての関係各機関の方々の危機管理意識が必然的に高められたことだと思われま

す。昨年、各消防本部の皆様のご理解、御協力をいただきまして山梨県緊急消防援助隊航空部隊受援計画を作成いたしました。今回の大規模災害を踏まえ、今後さらに皆様のご貴重な御意見をいただきながら連携活動等と受援体制を深めていけたらと考えております。

航空隊では東海地震等各種災害に備え、体制の強化及び整備を図っています。皆様にはヘリコプターの機動力等、消防防災航空隊の特性をさらに認識していただき多岐にわたり活用していただきたいと思ひます。

今後も現場での連携活動等が安全かつ有効に進められますよう御理解、御協力をお願いいたします。

山梨県消防防災航空隊

隊長 小幡 浩一

緊急消防援助隊出動報告 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）

16時09分「あかふじ」双葉を離陸
岩手県花巻空港へ向け飛行を開始する。

平成23年3月11日（金）14時46分、太平洋三陸沖を震源とした地震が発生、地震の規模はM9.0を記録し、国内においては



発災翌朝の沿岸部の様子

関東大震災（1923年）や阪神・淡路大震災（1995年）を上回る過去最高の規模となり、この地震に伴う大津波は太平洋沿岸部の各地に押し寄せ甚大な被害をもたらした。また、この津波の影響で福島第1原発損壊等により様々な被害がさらに発生した。この地震に端を発した東日本大震災では死者・行方不明者は合わせて2万人を超え、また今でも多くの被災者が避難生活を余儀なくされているなど、いまだ多くの影響をもたらしている。

当航空隊は緊急消防援助隊航空部隊として3月11日から30日までの間、第1次隊、2次隊、



降下中の隊員

3次隊と出動し12日間の活動を行ない出動人員は隊員、操縦士、整備士含め延べ23人、活動内容は救助活動9回救助人員57人、救急活動2回搬送人員5人、物資搬送1回、上空偵察1回であった。

《第1次隊（3月11日から14日）》

山梨県でも震度5強の揺れを観測した。県内関係機関と連絡をとり県内の被災状況の確認を行ないつつ、テレビやインターネット等で情報収集しながら迅速出動に備え態勢を整えた。

15時30分総務省消防庁から岩手県花巻空港へ情報収集航空部隊として出動要請を受けたが、離陸直前に再度、総務省消防庁から救助航空部隊としての出動要請を受け、資機材の積み替えを行ない離陸した。

離陸後、山梨県内の状況を確認しながら飛行し、埼玉県内を飛行中に双葉航空隊事務所からイリジウム電話で給油予定地の仙台空港は壊滅的状況で航空機の離着陸は不



福島空港内の様子

可能であるとの情報が入り福島空港へ着陸することとなった。着陸した後、燃料給油中に天候

チェック等した結果、飛行ルート为天候不良や日没時間等を考慮し福島にステイすることとなった。



翌日に備えミーティングする隊員たち

12日5時40分、福島空港を離陸し宮城県岩沼市に向かう。岩沼市阿武隈川場外離着陸場をフォワードベースとし、亘理町浜吉田地区での救助活動を行なった。



瓦礫が多く屋根の上に降下する隊員

夕方までに8回の救助活動で54名を救出し、阿武隈川場外離着陸場で仙南消防救急隊に引渡しまたはみやぎ県南中核病院に搬送した。活動終了後、ヘリベースである山形空港に着陸、この日の任務を終えた。



屋根の上で活動中の隊員

13日早朝、山形空港で任務付与され前日に引続き宮城県亘理町浜吉田地区での救助活動を行なう。3名を救出し病院に搬送した後、機体に不具合が発生したため山形空港に着陸した。機体点検のためこの日の活動を断念。



上空から被災状況を知り啞然とする被災者

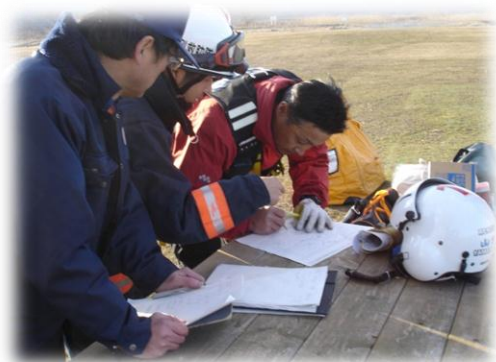
14日も機体点検のため活動はなし。点検が16時10分に完了、クルー交代のため「あかふじ」は山形空港を離陸し双葉に一旦帰隊した。



病院駐車場にて要救助者引渡し



屋根に書かれた救助を待つ人員数



活動内容や救出人員を報告

《第2次隊（3月17日から20日）》

天候が回復し、17日5時55分に双葉を離陸、途中栃木ヘリポートに給油のため一旦着陸しフォワードベースとなる宮城県利府町グランディ21に向け飛行する。

9時27分グランディ21に着陸するも天候不良のため終日待機となった。



降雪のため駐機準備をする隊員たち

18日は早朝から天候も回復しており、雪をかぶった「あかふじ」が朝日を浴びて輝いていた。



朝日に輝く「あかふじ」

この日は登米市追町から石巻市雄勝町へ物資搬送の任務を受け、フトピア漕艇場緊急離着陸場で飲料水及び食糧を引継ぎ避難所となっている大須小学校に搬送した。

19日の任務は救急搬送となった。気仙沼市の五右衛門場外離着陸場で東京消防庁の

救急隊から傷病者3名を引継ぎ仙台市の東北大学医学部付属病院へと搬送した。



東北大医学部病院屋上ヘリポート

20日は天候悪化が懸念されたので、クルー交代のため双葉に帰隊した。



飛行前ブリーフィングの様子：グランディ21



航空機燃料のためのドラム缶：グランディ21

《第3次隊（3月27日から30日）》

宮城への進出ルート为天候が悪く26日まで双葉で待機し、27日の天候回復とともに双葉を離陸し宮城へと向かった。第2次隊と同様フォワードベースはグランディ21。



グランディ21に駐機する応援ヘリコプター

28日は転院搬送の任務付与により、石巻市から秋田県へ傷病者2名を搬送した。石巻赤十字病院で傷病者2名を収容、医師1名が搭乗し、秋田県鹿角市かづの厚生病院及び同県大館市大館市立総合病院に傷病者1名をそれぞれ搬送した。



石巻赤十字病院の様子

29日の任務はなく終日待機、30日は消防職員を搭乗させての上空偵察の任務を付与された。石巻市総合運動公園で石巻消防本部職員2名が搭乗、気仙沼市から石巻市雄勝町のかけての沿岸部を中心とした上空偵察を実施した。



活動内容を確認する各県航空隊

3月30日、50時間点検及びクルー交代のため帰隊となり、途中埼玉県本田エアポートで給油し、15時23分双葉に着陸。その後、山梨県航空部隊は自県待機となった。



津波により被災した街の様子



津波に流され海に浮かぶ家



「あかふじ」の活動エリアマップ（秋田県にも救急搬送している）

今回の地震は東北地方を中心として東日本に大きな被害を及ぼしました。応援航空部隊として活動している中で、東北地方の各場外離着陸場や病院等の離着陸場では航空隊員をはじめ消防本部職員、航空隊経験者の協力のもと安全管理体制がしっかりと図られていると感じました。また、当航空隊が出動した宮城県においても拠点ヘリポート等では情報収集やヘリコプター離着陸時の安全管理等の活動を行っていました。ヘリコプターの特性や県内のことを認識している航空隊経験者がいることで各航空隊員は安心して災害活動に従事できました。

当航空隊では山梨県が被災した場合を想定し、山梨県緊急消防援助隊航空部隊受援計画を策定しました。しかし、当航空隊員のみでは活動に一部制限がでることも懸念されますので、県内消防本部の御協力をお願い致します。



昨年度実施した受援計画研修会の様子

平成22年度卒隊隊員紹介



副隊長 長田善輝 隊長 丸山裕司
(富士五湖消防本部) (甲府地区消防本部)

平成23年3月31日付で2名の隊員が任期満了に伴い派遣元消防本部に帰任しました。
お二人のこれからのご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

今年度行事予定

- 4月
- 5月 山梨県水防訓練 (河口湖)
- 6月 全国航空隊長会議 (東京都)
- 7月 第1回全国航空隊員研修協議会 (千葉県)
- 8月 陸上特殊無線技士講習会 (東京都)
- 9月
- 10月 山梨県地震防災訓練 (昭和町)
山岳遭難救助研修 (富山県)
第2回全国航空隊員研修協議会 (岡山県)
- 11月 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 (長野県)
- 12月 全国消防救助シンポジウム (東京都)
陸上特殊無線技士講習会 (東京都)
- 平成24年
- 1月 耐空検査
給水ポイント、場外離着陸場等調査
- 2月 給水ポイント、場外離着陸場等調査
新任隊員研修
- 3月 新任隊員研修
山梨県消防学校専科教育救助科合同訓練

本年度隊員紹介



隊長 小幡浩一
(甲府地区消防本部)



副隊長 赤井隆之
(峡北消防本部)



副隊長 田中昭州
(笛吹市消防本部)



隊員 田中 淳
(甲府地区消防本部)



隊員 園田一馬
(富士五湖消防本部)



隊員 武井英司
(東山梨消防本部)



隊員 小林 雷
(峡南消防本部)



隊員 小林茂明
(上野原市消防本部)



シコルスキーS76-B
JA6748 **あかふじ**



「あかふじニュース」発行に寄せて

県内各消防本部を始め関係機関の皆様方におかれましては、日頃から消防防災航空隊の活動に対し御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当消防防災航空隊は平成7年4月の発足から今年で17年目を迎えますが、「あかふじ」がこれまで事故無く充実した活動をしてこられましたのも皆様方のご支援の賜と存じ、深く感謝申し上げます。

平成22年度においては、救助活動51件、救急活動23件、火災防御5件、災害応急対策4件と県内において県民の生命及び財産を守るための活動を行うとともに、緊急消防援助隊や相互応援として22件の活動を行うなど県外においても大きな役割を果たしているところです。

特に、本年3月に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、地震発生後わずか2時間半で福島県入りし、その後宮城県でホイストを使用して57名を救助するなど、計3回の派遣を通して救助活動や救急搬送、物資搬送等において航空部隊の特性を生かした多くの活動を行って参りました。

当隊では、県内で大地震等の大規模災害が発生し、緊急消防援助隊の応援を受ける場合において航空部隊が円滑に活動できる体制の確保等を図るため、平成22年2月に山梨県緊急消防援助隊航空部隊受援計画を策定いたしました。今回の東日本大震災での教訓を活かし、地上消防力との連携を確保する中で活動がより安全で迅速、効果的なものとなるよう検証、検討を進めているところです。

この度の「あかふじニュース」では、東北地方太平洋沖地震にかかる出動報告や今年度の事業予定等についてお知らせしておりますので、災害時の状況や航空部隊の活動等について更に御理解を深めていただくとともに、業務等の参考にして頂けたら幸甚に存じます。

当隊と致しましても、今後も市町村の消防を支援し、災害による被害を最小限に防止するよう努めて参る所存ですので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年7月

山梨県消防防災航空隊
室長 田中史仁



